

技術開発完了報告

5年2月24日	承認印	起案者印
あて名	秋田営林局 林業課 技術開発係	
発行	米内沢著 収獲係	

秋田営林局
米内沢営林署

課題名	広葉樹天然林施業法															
継続・自主 区分	署 自主	開発 期間	昭61 ~平3	担当 収獲係 斎藤進幹												
目 標	開発箇所は昭和54年に直営生産で伐採した箇所であり、跡地更新は天下2類であったので3試験区（無処理区・刈払区・全刈区）に区分して、その成長状態を調査したものである。															
結 果	無処理区と刈払区では枯死したものは各1本ずつと少なく、また成長量も5年間で平均で1㍍位に伸びており、一定の成果があったものと考えられます。ただ全刈区は3年目までにようやく7本ぼう芽しましたが、5年目の平3には全滅してしまいました。		技術開発経費内訳													
			(A)	千円												
<table border="1"> <tr> <td>物件費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基 礎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> </tr> </table>					物件費		役務費		人件費		基 礎		その他		合 計	
物件費																
役務費																
人件費																
基 礎																
その他																
合 計																
開発経過と調査内容																
開発箇所の状況は、標高800㍍・林床型は落低型・土壌はBE・母樹は点状保残である。なお、試験区は1プロット10㍍×10㍍であり、その中から稚幼樹を30本ずつ選出した。																

年度別平均成長量						
年 度	61	61	62	63	元 2	3
	・6	・11				
○無処理区	115	129	152	171	188	不 212
○刈払区	153	165	184	212	237	実 266
○全刈区	不	ぼう	芽	58	62	行 0
補 足 説 明						
(1) 全刈区は61・6年に稚樹の樹高が25㍍～26㍍あったものを平均21㍍程度に切断し、ぼう芽を期待したものである。 また63年のぼう芽本数は4本・元年の本数は3本であった。						
(2) 平2年度の調査不実行は積雪多量等からである。						
評価及び普及指導						
以上の調査結果から一定の成果があったと考察されます。 具体的には						
1・無処理区は試験本数の30本以外に約60本位のブナ種樹が出現し密生状態になっている。						
2・刈払区は設定時点での下刈が効を奏してか無処理区より平均で16㍍位伸びている。						
3・全刈区は調査2～3年目にして7本発芽したが、その後は周囲の笹等に成長を阻害され5年目に全滅してしまいました。このような状態からぼう芽の期待は難しいものと考えられます。						